

浅間さま

匠 探訪

194

「海開き」「山開き」という言葉を耳にする時期を迎えました。山の安全を祈る「山開き」で広く知られているのが富士山本宮浅間大社（静岡県富士宮市）でしょう。

7月1日に富士登山の山梨県側吉田ルートで山開きすること関係するのか、この日に「浅間参り」が行われるところがあります。

昭和50年代ごろだったでしょうか、「田町の浅

間様」と呼ばれる天神山公園（中央地区）にまつられる浅間神社にこの日の早朝、浴衣姿にはだしでお参りした話をよく耳にしましたが、現在はどうでしょうか。

「千葉宗教授人名簿」記載の市内66社のうち、3社の浅間神社が登録されています。

このうちの1社、南山崎（吉田地区）の浅間神社を紹介します。集落は小学校周辺から入山崎区

浅間神社の石段



への道路に沿ってと神社周辺にあります。同社は小高い林の中にまつられ、90数段の石段の途中に鳥居が、上りきると社殿があります。石段と手洗石は1855（安政

2）年3月に造立、寄進され、江戸時代から村の鎮守であったのでしょう。南山崎村と呼ばれるようになったのは1635（寛永12）年からそれまでは山崎村。この年に入山崎村と分けられ、同時に村の支配が二つになったものの、一部は入山崎村同様多古藩領でした。

正式村名は南山崎村ですが、村人たちの間では「山崎村」や「両山崎村」（1753・宝暦3年）が使われていたようです。1845（弘化2）年の家数は15軒、1874（明治7）年には21軒に増えています。

こうした例は東小笹、西小笹（ともに共興地区）にも見られます。現在宗教法人名簿登録は3社だけですが、江戸時代には小高い山林や神社境内などに石祠（石の宮）がまつられ、「浅間さま」として広く信仰されていました。

（市文化財審議会委員・依川雅二）

閩秘書課広報広聴班

☎73・0080